

2023年度 第1四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2023年7月27日
日本ゼオン株式会社

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異

- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要

- P.23 2023年度 上期事業環境
- P.24 2023年度 業績予想
- P.25 2023年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q1連結実績は対前年同期で減収減益、対前期で減収増益
- ◆ 原料価格は国産ナフサ横ばい、アジアブタジエン下落、為替は円安
- ◆ 2023年度上期業績予想は、売上高を下方、営業利益を上方に修正

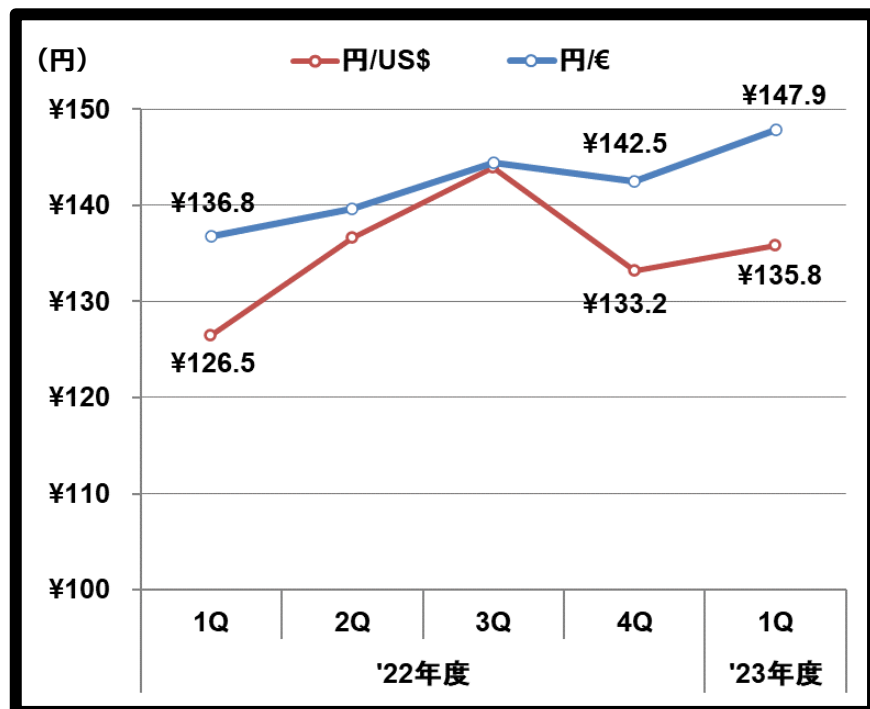
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 合成ゴムは中国景気減速、化成品は需要回復遅れ、ラテックスは手袋需給緩和の影響を受け、YoYは減収減益
- ◆ 一方で、為替影響および棚卸資産関連費用良化等で合成ゴムがエラストマー素材全体の営業利益を押し上げ、QoQでは増益

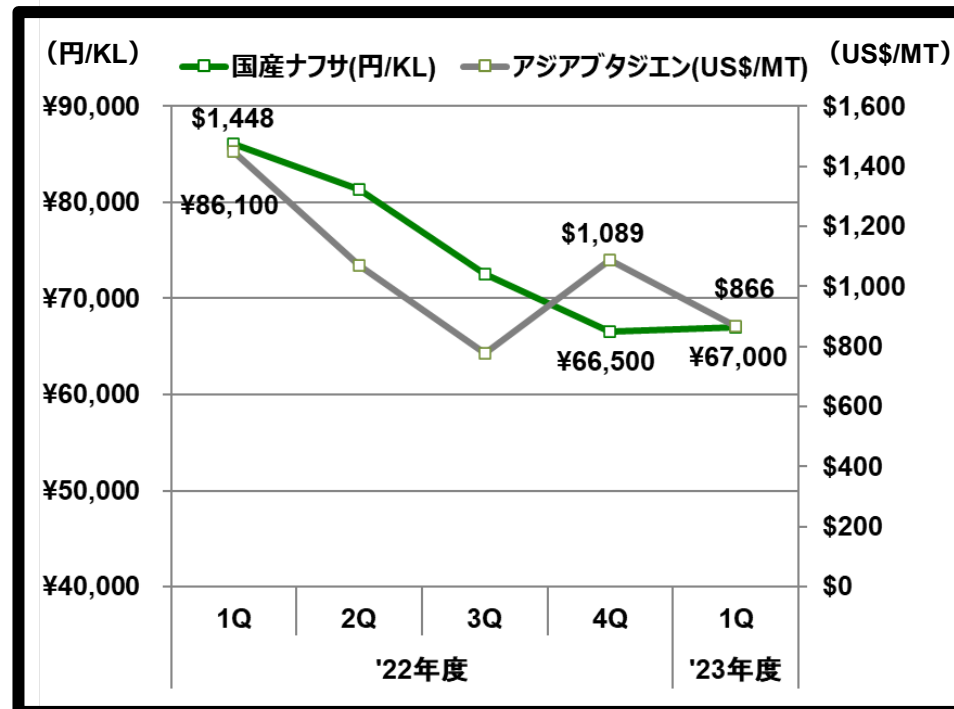
【高機能材料の概況】

- ◆ 高機能樹脂・高機能ケミカルともに、中国景気減速による在庫調整、半導体市場の停滞等の影響を受け、YoYは減収減益
- ◆ Q1以降は光学フィルムおよび電池材料の出荷量は回復基調にあり、QoQは増収増益

【為替推移】



【主原料推移】



		2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥126.5	¥133.2	¥135.8	+7%	+2%
	円/€	¥136.8	¥142.5	¥147.9	+8%	+4%
主原料	国産ナフサ/KL	¥86,100	¥66,500	¥67,000	▲22%	+1%
	アジアブタジエン/MT	\$1,448	\$1,089	\$866	▲40%	▲20%

※国産ナフサ：2022年度Q1及び2022年度Q4は確報値、2023年度Q1は当社見込値

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）**
- P.6 業績サマリー（セグメント別）**
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2023年度 上期事業環境
- P.24 2023年度 業績予想
- P.25 2023年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
売上高	976	944	919	▲ 56	▲ 25
営業利益	107	▲ 7	61	▲ 46	+68
経常利益	129	3	83	▲ 46	+80
当期純利益	87	▲ 77	58	▲ 29	+135

- 前年同期比 : 売上高 ▲56億円、営業利益 ▲46億円
- 前期比 : 売上高 ▲25億円、営業利益 +68億円

注記：海外関係会社の2023年1～3月実績がQ1連結決算に反映されています。
2023年度より、Zeon Chemicals Asia Co., Ltd.が連結対象となりました。

（単位：億円）

【売上高】	2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	535	549	522	▲13	▲27
高機能材料	301	239	252	▲49	+13
その他の事業、消去等	140	157	145	+6	▲11
売上高合計	976	944	919	▲56	▲25

【営業利益】	2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	41	▲20	25	▲16	+45
高機能材料	70	18	40	▲30	+22
その他の事業、消去等	▲3	▲4	▲3	▲0	+0
営業利益合計	107	▲7	61	▲46	+68

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

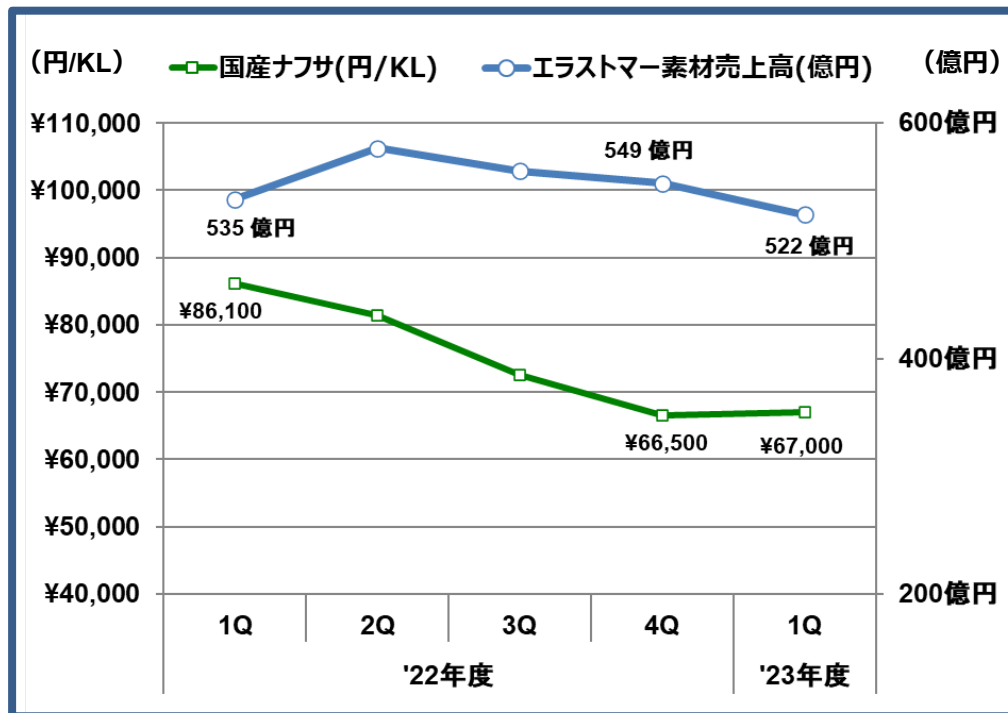
- P.8 エラストマー素材 概況**
- P.9 エラストマー素材 P/L**
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異**

- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

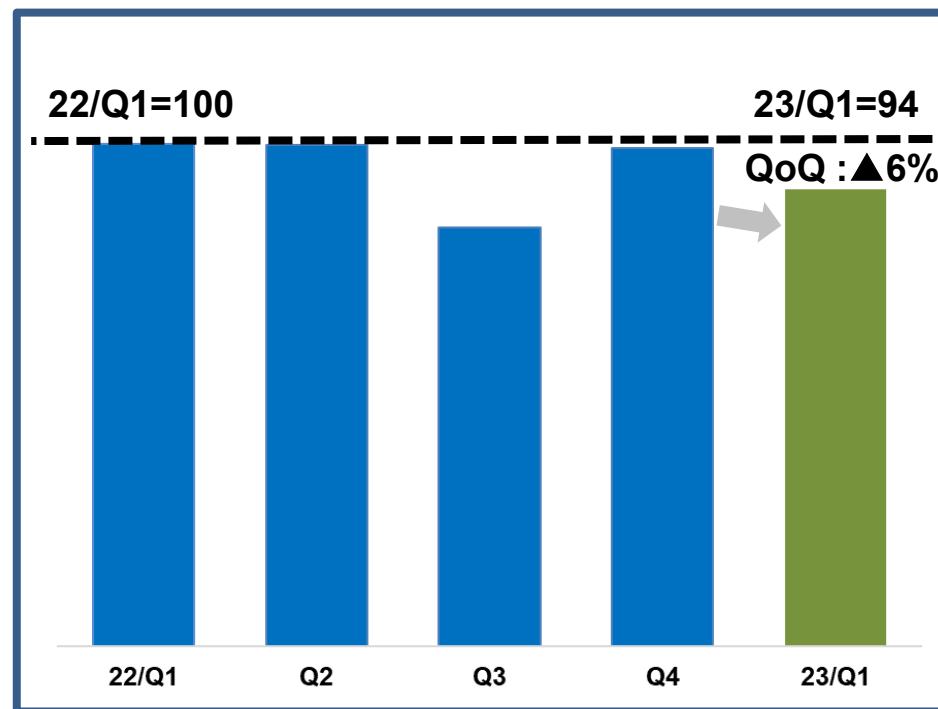
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要

- P.23 2023年度 上期事業環境
- P.24 2023年度 業績予想
- P.25 2023年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



- 中国景気減速の影響を受け、合成ゴムは汎用ゴムを中心に出荷量減
- 化成品の需要回復遅れやラテックスの手袋向け需給の緩和、国産ナフサ価格の影響等を受け、セグメント全体の販売価格は下落

(単位：億円)	2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (22/Q1=100)	100	90	87	▲ 13 pt	▲ 13 %	▲ 4 pt	▲ 4 %
合成ゴム	100	99	94	▲ 6 pt	▲ 6 %	▲ 6 pt	▲ 6 %
ラテックス	100	72	68	▲ 32 pt	▲ 32 %	▲ 5 pt	▲ 7 %
化成品	100	77	80	▲ 20 pt	▲ 20 %	3 pt	3 %
売上高	535	549	522	▲ 13	▲ 2 %	▲ 27	▲ 5 %
合成ゴム	374	400	405	31	8 %	6	1 %
ラテックス	36	29	27	▲ 10	▲ 27 %	▲ 3	▲ 10 %
化成品	116	107	79	▲ 37	▲ 32 %	▲ 28	▲ 26 %
その他・消去	9	13	11	2	28 %	▲ 2	▲ 12 %
営業利益	41	▲ 20	25	▲ 16	▲ 39 %	45	- %
営業利益率	8%	▲ 4%	5%				

■ 売上高

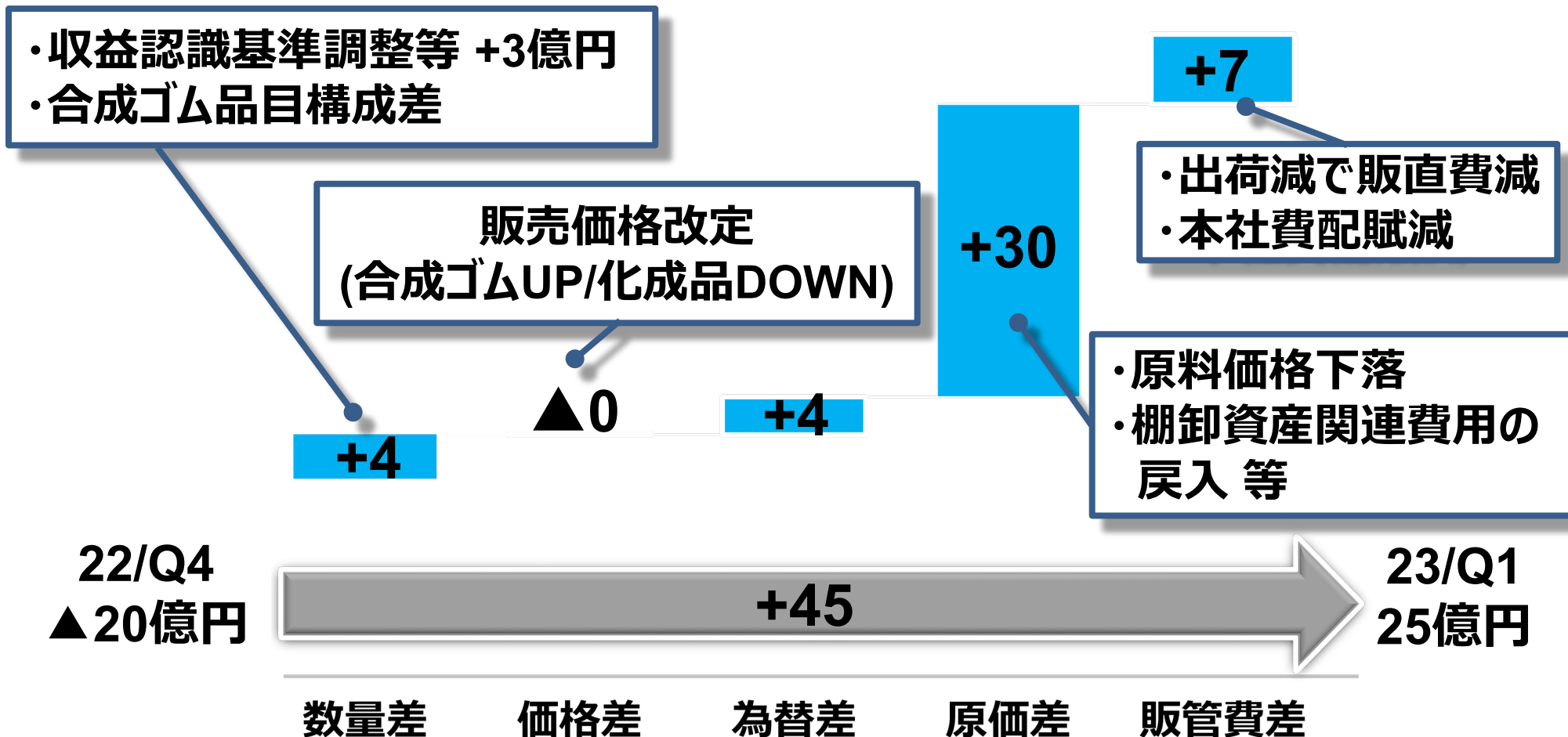
出荷量と販売価格の下落により、YoY・QoQともに減少

■ 営業利益

為替影響および棚卸資産関連費用良化等で、合成ゴムが底上げに貢献

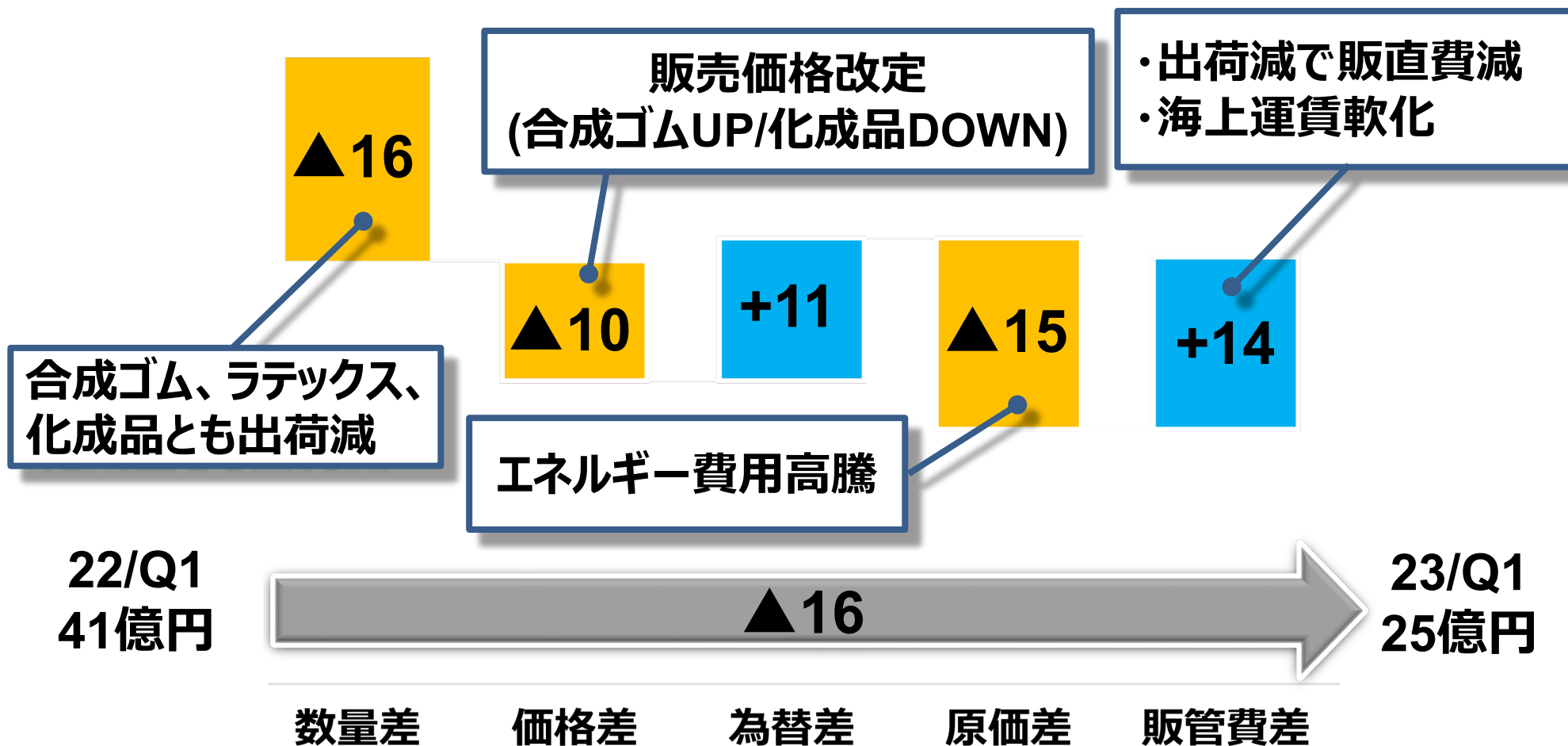
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異

- P.13 **高機能材料 P/L**
- P.14 **高機能材料 営業利益差異**
- P.16 **高機能ケミカル事業：電池材料の状況**
- P.17 **高機能樹脂事業：光学樹脂の状況**
- P.18 **高機能樹脂事業：光学フィルムの状況**

- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要

- P.23 2023年度 上期事業環境
- P.24 2023年度 業績予想
- P.25 2023年度 配当金予想

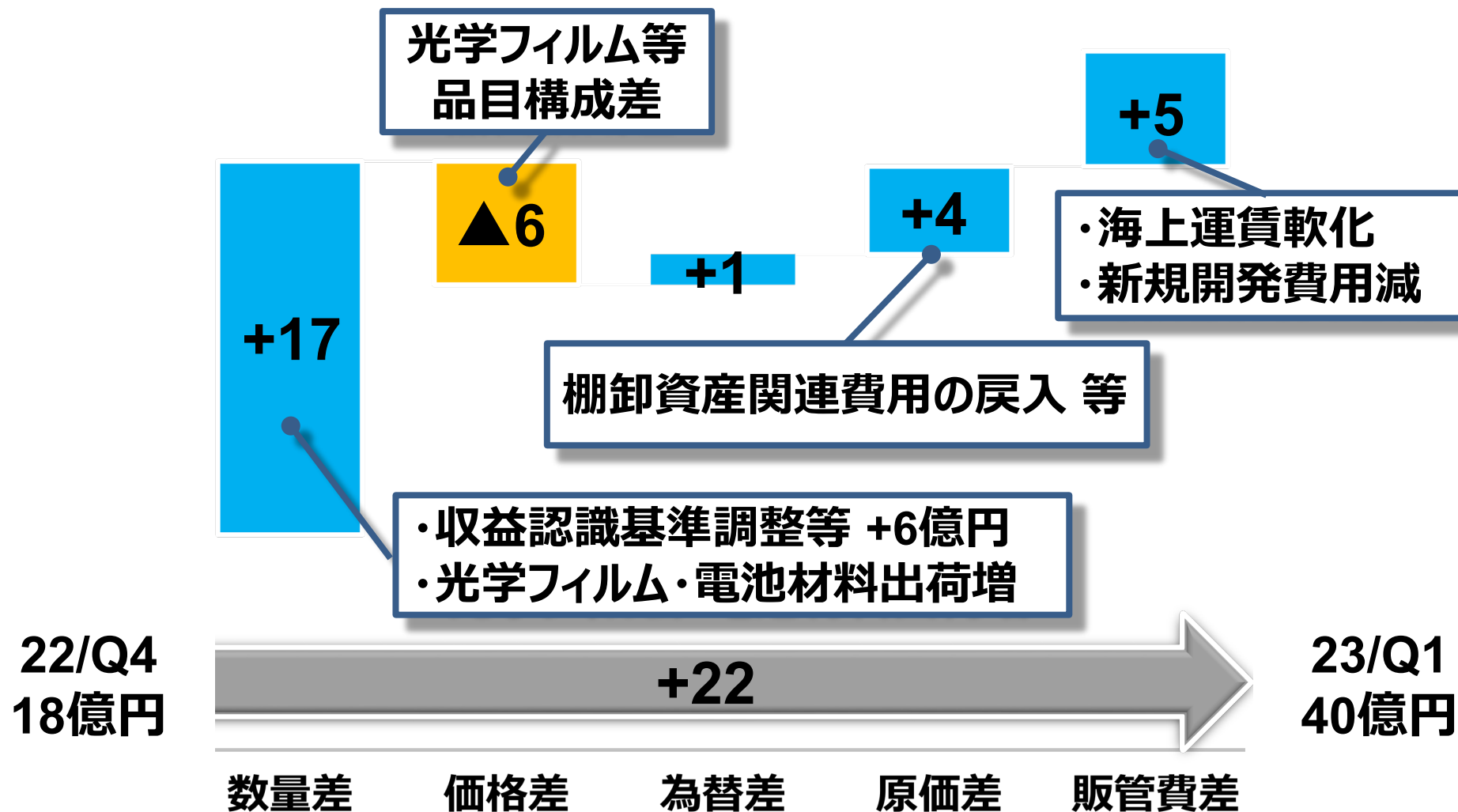
(単位：億円)

	2022年度 Q1	2022年度 Q4	2023年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	301	239	252	▲ 49	▲ 16 %	13	6 %
※ 高機能樹脂	177	135	156	▲ 21	▲ 12 %	21	16 %
高機能ケミカル	113	95	84	▲ 29	▲ 25 %	▲ 11	▲ 11 %
メディカル他	11	9	12	1	9 %	3	33 %
営業利益	70	18	40	▲ 30	▲ 43 %	22	128 %
営業利益率	23%	7%	16%				

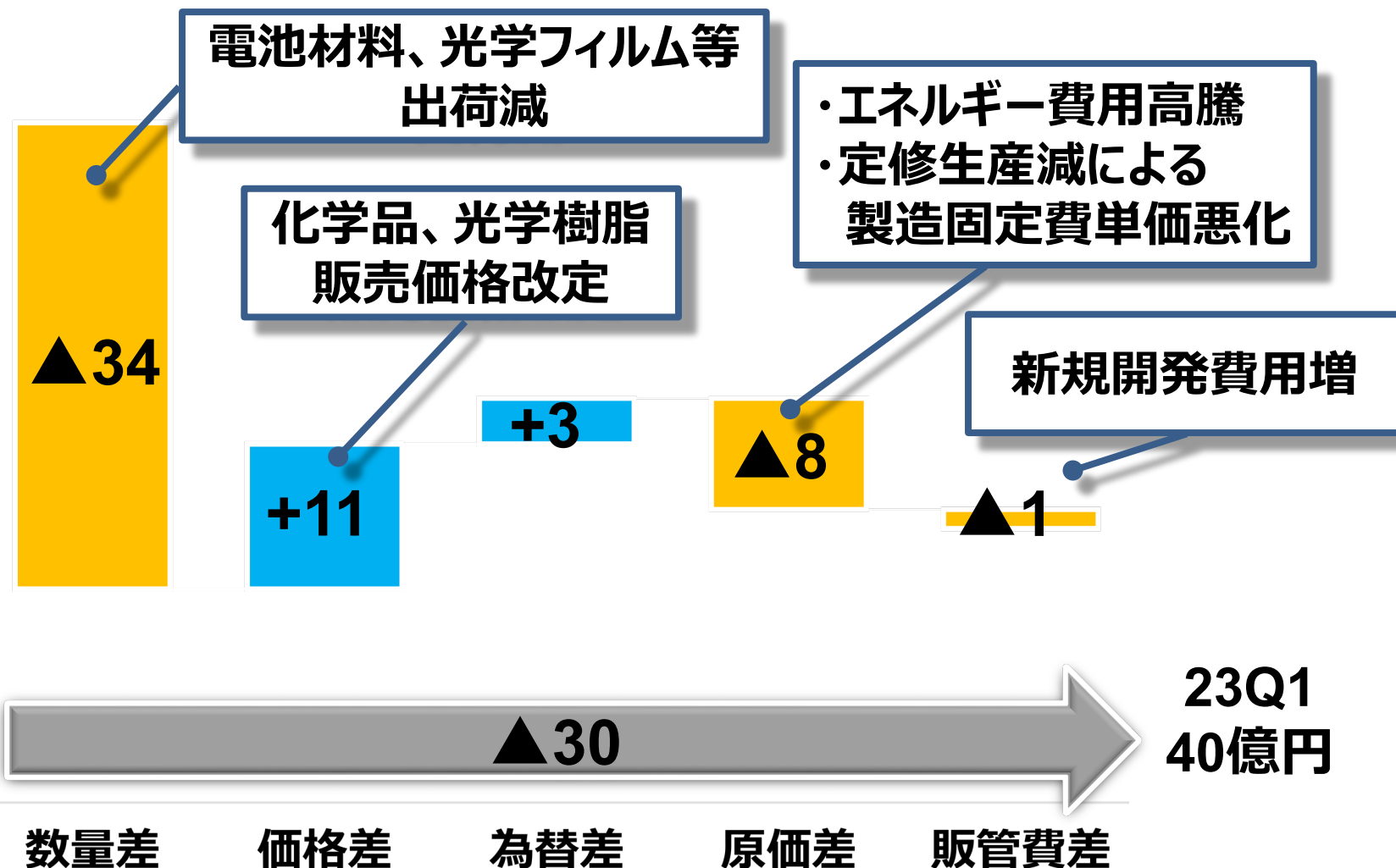
※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム
 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

- **高機能樹脂** : 光学フィルムおよび光学用途向け樹脂の出荷量低調によりYoYは減収となるも、光学フィルムはQ1より回復基調にありQoQは増収
- **高機能ケミカル** : 電池材料は顧客の在庫調整の影響を受けた一方、化学品は水島工場定修により出荷調整を行ったため減収なお電池材料の出荷量はQ1以降緩やかに回復

(単位：億円)



(単位：億円)



	YoY	QoQ
EV向け	75%	114%
民生他向け	99%	203%
全体	78%	124%

■ EV向け

中国を中心に顧客の在庫調整の影響を受け、YoYは出荷量減
顧客の稼働は緩やかに回復に向かっており、QoQは出荷量増

■ 民生他向け

スマートフォン向けを中心に堅調
YoYは出荷量横ばいだが、QoQは出荷量増

	YoY	QoQ
光学用途向け	75%	93%
医療その他向け	109%	84%
全体	99%	85%

■ 光学用途向け

中国景気減速により需要振るわず、YoY・QoQとも出荷量減

■ 医療その他向け

医療向けは底堅く、YoYは出荷量増となるも、半導体市場の停滞等の影響を受け、QoQは出荷量減

	YoY	QoQ
中小型向け	73%	159%
大型向け	95%	112%
全体	90%	118%

■ 中小型向け

中国景気減速により需要振るわず、YoYは出荷量減
スマートフォンの新モデル生産開始に伴い、QoQは出荷量増

■ 大型向け

22年度Q2から低迷してきた出荷量はYoYでほぼ横ばいまで回復、
QoQは出荷量増

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異

- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.20 B/S概要**
- P.21 C/F概要**

- P.23 2023年度 上期事業環境
- P.24 2023年度 業績予想
- P.25 2023年度 配当金予想

総資産5,148億円 (▲81)

【流動資産】 ▲246億円

- ◆現預金 ▲71億円
- ◆売掛債権 +24億円
- ◆未収入金 ▲115億円
- ◆棚卸資産 ▲68億円

流動資産
2,720
(▲246)

固定資産
2,428
(+165)

【固定資産】 +165億円

- ◆有形固定資産 +100億円
- ◆投資有価証券 +49億円

【流動負債】 ▲207億円

- ◆買入債務 ▲260億円
- ◆コマーシャルペーパー +110億円

流動負債
1,399
(▲207)

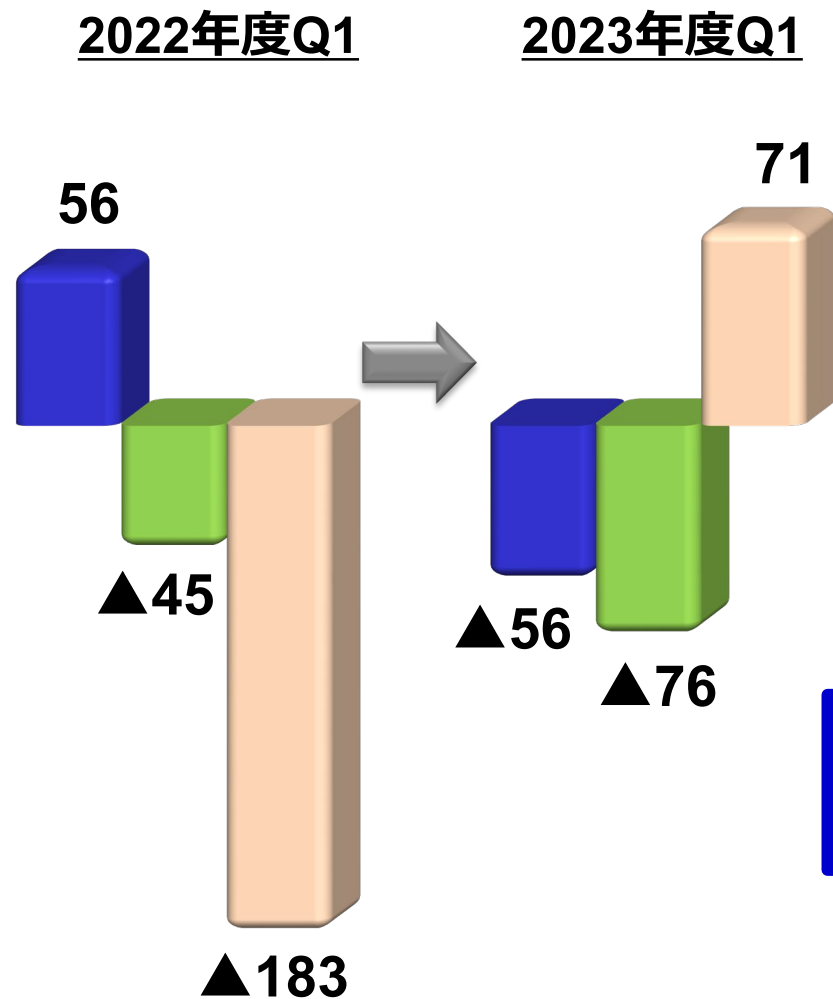
固定負債 267 (+37)

純資産
3,482
(+89)

【純資産】 +89億円

- ◆自己資本比率 67.1% (+2.7)
- ◆D/Eレシオ 0.11 (+0.03)

(単位：億円)



(単位：億円)

	2022年度Q1	2023年度Q1
営業CF	56	▲ 56
投資CF	▲ 45	▲ 76
フリーCF	10	▲ 132
財務CF	▲ 183	71
CF	▲ 173	▲ 61

■ 年間営業CFおよび年間フリーCFはプラスの見込（7/27時点）

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）

- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）

- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異

- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況

- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要

- P.23 2023年度 上期事業環境**
- P.24 2023年度 業績予想**
- P.25 2023年度 配当金予想**

		2023年度 上期着地予想		
		売上 予想	営利 予想	当初上期業績予想(4/26時点)に対する変化
(億円)		1,850	110	
エラストマー 素材		1,035	38	合成ゴム：原料価格下落による販売価格改定により 売上減 特殊ゴムの需要堅調で 営利増 ラテックス：手袋需給緩和の影響で 売上減、営利減 化成品：販売価格下落も出荷量増で 売上増 固定費単価良化で 営利増
	高機能 材料	515	80	光学樹脂：半導体市場の停滞の影響で、 売上減、営利減 光学フィルム：タブレット・ノートPCで出荷減を見込むも、 大型TV向け堅調で 売上横ばい、営利増 化学品：半導体市場の停滞の影響で 売上減 香料の需要堅調で 営利増 電池材料：顧客在庫調整回復に時間を要し、 売上減、営利減

※2023年度上期着地予想は、2023年7月27日時点の当社見立て

(単位：億円)

【売上高】	年間予想 (4/26時点)	修正上期予想 (7/27時点)	下期 (据え置き)	修正年間予想 (7/27時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	2,180	1,035	1,135	2,170	▲ 10
高機能材料	1,160	515	615	1,130	▲ 30
その他の事業、消去等	650	300	340	640	▲ 10
売上高合計	3,990	1,850	2,090	3,940	▲ 50

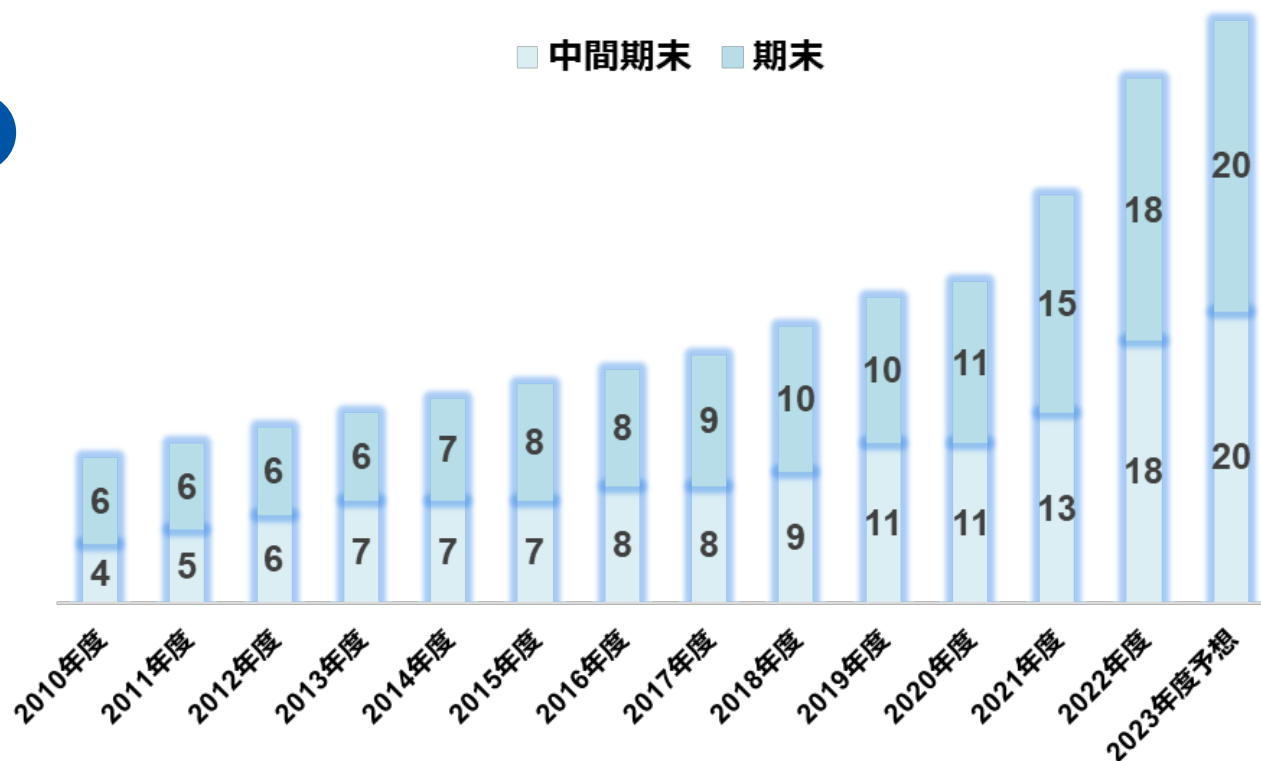
【営業利益】	年間予想 (4/26時点)	修正上期予想 (7/27時点)	下期 (据え置き)	修正年間予想 (7/27時点)	業績予想 差異
エラストマー素材	65	38	48	86	+21
高機能材料	180	80	100	180	-
その他の事業、消去等	▲ 5	▲ 8	17	9	+14
営業利益合計	240	110	165	275	+35

- 上期業績予想を売上高1,850億円、営業利益110億円に修正
2Q前提：US\$=140円、€=155円、国産ナフサ=¥59,300、アジアブタジエン=US\$617
- 下期は当初業績予想を据え置く
- 年間業績予想を売上高3,940億円、営業利益275億円に修正

【配当金予想、単位：円】

株主還元方針

- 安定的・継続的な配当を維持
- 配当性向30%以上を維持
- 自己株式の取得は市況や資金需要等を勘案し機動的に実施



■ 2023年度の配当金は中間20円、期末20円、年間40円予想を据え置く（配当性向は36%の見込）

■ 対前年度比+4円、2010年度から14期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2023年度
Q2決算発表**

2023年10月27日（金）を予定










※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON

日本ゼオン株式会社

以 上

統合報告書は[こちら](#)

2023年度Q1 (2022年度Q4比)				
事業	出荷	売上	営業利益	QoQ差異説明
合成ゴム				<ul style="list-style-type: none"> ・為替円安により増収 ・原料価格下落、棚卸資産関連費用の戻入等により増益
ラテックス				<ul style="list-style-type: none"> ・手袋向け需要は22年度並み ・原料価格下落、本社費コストダウンにより増益
化成品				<ul style="list-style-type: none"> ・需要回復遅れに伴う販売価格対応により減収 ・原料価格下落、棚卸資産関連費用の戻入等により増益

		2023年度Q1 (2022年度Q4比)				QoQ差異説明
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		
		売上	営業利益	売上	営業利益	
光学樹脂						<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量減により、単体では減収減益 ・収益認識基準調整により、連結営業利益は増益（Q4の戻し入れ影響）
光学フィルム						<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量増により、増収増益
電池材料						<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量増により、単体では増収増益 ・連結調整影響で連結売上は減収

用途	2023年度市況動向 (22年度比)		状況変化
	4/26 時点	7/27 時点	
大型TV			変化なし
スマートフォン			変化なし
タブレット			巣ごもり需要一巡により 生産計画修正
ノートPC			巣ごもり需要一巡により 生産計画修正

※2023年度市況動向は、当社予測に基づいた当社製品の22年度比販売見立て

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

在庫調整終了の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

在庫調整終了の長期化

円高ドル安

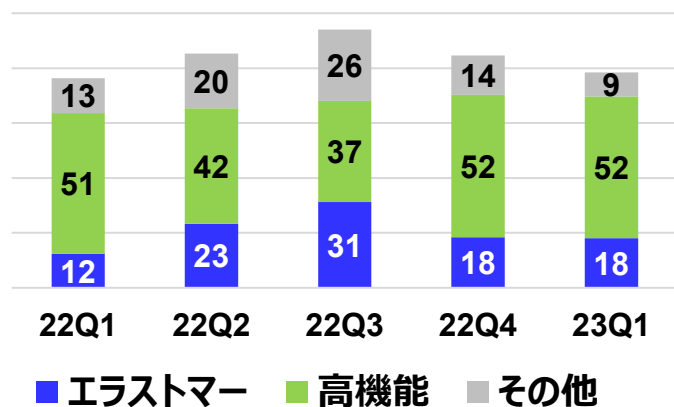
景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

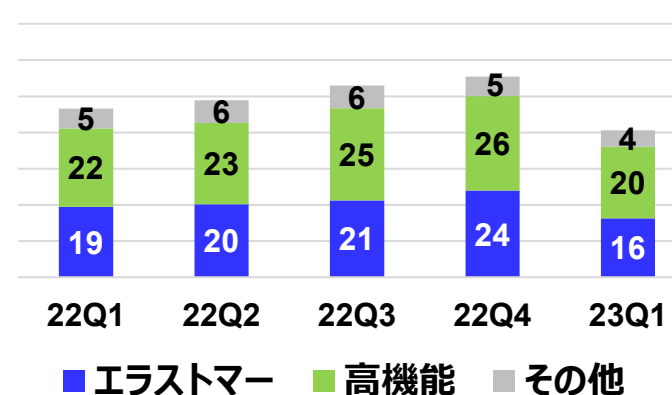


22年度実績
340億円



23年度予想
300億円

【減価償却費】

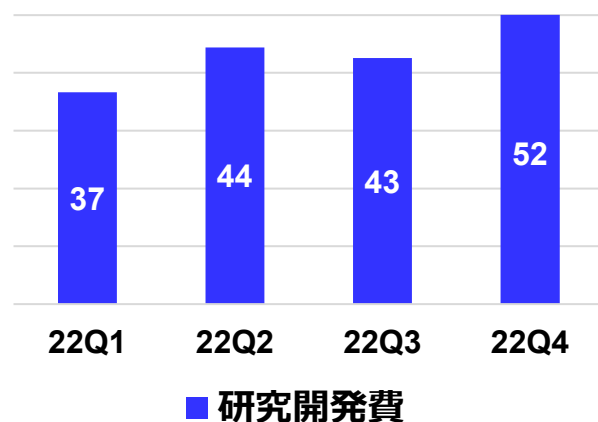


22年度実績
204億円



23年度予想
195億円

【研究開発費】



22年度実績
176億円



23年度予想
180億円

注記：資本的支出について、22Q3および22Q4の高機能とその他の金額を修正しています。各四半期の総額に変更はありません。